

## 行事予定

2023(令和5)年1月~4月

### 【特別展／企画展】

2022年 9月19日(月)~2023年1月14日(土)

2022年度企画展Ⅱ やさしいキリスト教展シリーズ  
「キリスト教美術をみとく—キリスト・聖母・聖人—」  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

2022年 11月19日(土)~2023年1月13日(金)

2022年度博物館実習成果展  
「神殿奉獻祭(ハスカ)—ユダヤ教の光の祭り—」  
[主催] 西南学院大学博物館実習生  
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2022年 12月5日(月)~2023年4月下旬

2022年度産官学連携サテライト展示Ⅲ  
「『読む』キリスト教—初めに言葉があった—」  
[場所] 南島原市原城図書館

2022年 12月15日(木)~2023年1月15日(日)

令和4年度南島原市×西南学院大学博物館連携特別展  
「Real 有馬領内と島原・天草一揆」  
[主催] 南島原市教育委員会  
[場所] 南島原市口之津歴史民俗資料館

2023年 1月23日(月)~3月11日(土)

2022年度特別展  
「掘り出された祈り—考古学からみた筑前・筑後のキリタン—」  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室

2023年 3月1日(水)~5月23日(火)

2022年度企画展Ⅲ 研究室訪問シリーズⅣ  
「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」  
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

### 【イベント】

2023年 2月25日(土)13:00~16:00

2022年度西南学院大学博物館特別展関連公開シンポジウム  
「考古学からみた九州の地域社会とキリタン」  
[場所] 西南コミュニティーセンター1階ホール  
※定員60名／事前申込制

### 【休館】

毎週日曜日

2022年12月28日(水)~2023年1月5日(木) 年末年始休館

2023年1月16日(月)~1月21日(土) 臨時休館

2023年2月27日(月)~28日(火) 常設展示室のみ閉室

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。  
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

## 西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

### ●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00~18:00(入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10~8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、  
年末・年始[12/28~1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

[f](https://www.facebook.com/seinamuseum) seinamuseum [@seinan\\_museum](https://twitter.com/seinan_museum) [@seinan\\_museum](https://www.instagram.com/seinan_museum)

## 来館者掲示板

### 【来館者の言葉】

絵の中の何が「誰の」、もしくは「何の」モチーフなのかがわかり、非常に収穫のある展示だった。内容(文章の)もキリスト教初心者でもついていけるよう配慮されており、大学のキリスト教美術を受けているように学びが多かった。展示物もカトリックのものが多く、西南ではなかなか触れられないので貴重な機会だった。ありがとうございました。(2022年9月)

中高時代親しんでいた聖書、毎週読んでいたことを久しぶりにおもい出しました。当時は、聖書と教科書と、ロウ講堂や地元の教会でしか聖書の世界観を理解していませんでしたが美術品が実際にみれて、キリスト教の昔の人たちの信仰の想いの強さを感じたようにおもいました。(2022年10月)

幅広い年代に対応しており、テーマごとにしっかり区切られていたのがよかった。勉強にもなったので来た価値が大いにあると思う。(2022年10月)

9月から年末にかけて「キリスト教美術をみとく—キリスト・聖母・聖人—」を開催いたしました。年齢問わず、多くの方々にご来館いただきました。季節も変わり、寒さが次第に厳しくなっていく時期ですので、お体に気をつけてお過ごし下さい。1月からは新たな特別展が開催されます。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 相江 なぎさ

### 編集後記

2022年も終わりに近づきました。今年は2年ぶりの海外調査を実施できるなど、大きな変化を感じられる年でした。世界情勢は予断を許しませんが、来年も収取保存・調査研究・展示教育という博物館の使命を粛々と果たしていきたいと思えます。

博物館教員 下園 知弥

### アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車... 約17分
- 博多駅 → 西新駅下車... 約12分
- 天神 → 西新駅下車... 約8分
- ※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前... 約35分
- 天神 → 修猷館前... 約20分
- ※修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学... 約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学... 約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学... 約15分

# News

## 西南学院大学博物館ニュース

Volume **47** 2022.12

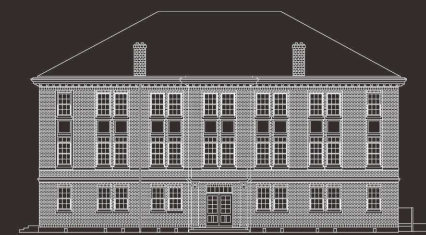
西南学院大学

所蔵品紹介 エルサレムスカヤの聖母

大学博物館のお仕事③ 「大学博物館で働く人—学芸員編—」

博物館通信 「波多野培根記念日特集展示」を開催しました ほか

展覧会紹介 「神殿奉獻祭(ハスカ)—ユダヤ教の光の祭り—」ほか



### 所蔵品紹介 特集

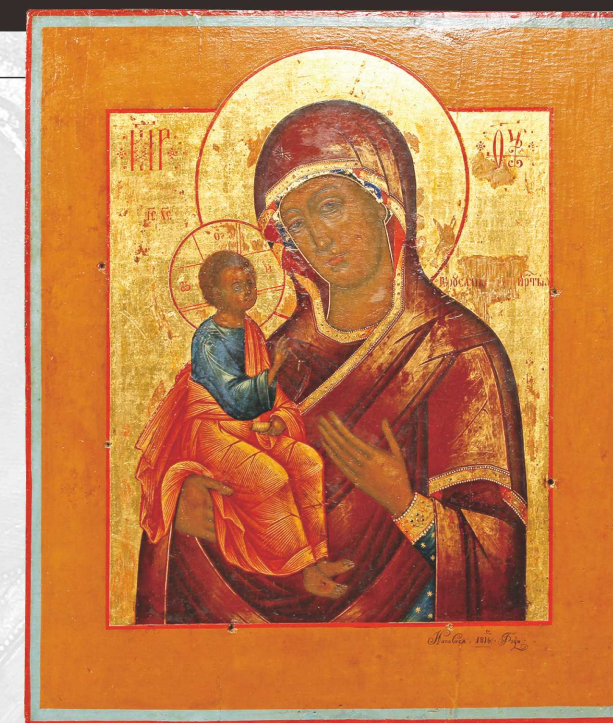
## エルサレムスカヤの聖母

Virgin of Jerusalem  
1816年(2021年に修復)  
ロシア / 板にテンペラ、金箔 / 法量:34.0×29.5cm

本資料は、19世紀前半にロシアで制作されたイコン(聖像画)です。イコンとは、正教会における伝統的な宗教画であり、その語は「像」「似姿」を意味するギリシア語εἰκών(エイコーン)に由来します。正教会の信徒たちは日々、教会や自宅に飾られたこの画を通して神を視て、この画に拝み、口づけをすることで、その向こうに在る神への信心を示します。また、この画を創ること自体も神への信心の証とされており、イコンの制作は修道士の大事な仕事のひとつとされてきました。

伝統的なイコンは板にテンペラ(卵黄を使ったメディウムと顔料を混ぜ合わせた絵具)で描かれていますが、それ以外にも油彩で描かれたイコン、金属製イコン、ガラスイコンなども存在します。また画風についても、古代・中世以来の様式に忠実なものから、西欧画風のものや民藝的なものまで、さまざまなスタイルが混在しています。本資料は、そのようなヴァリエーションの中でも極めて伝統に忠実な形式を示していることから、正規のイコン画教育を受けた修道士の手によるものであると推測されます。また、画面の枠線に沿って複数の穴が穿たれていることから、かつてはリザと呼ばれる保護用の装飾具で覆われていたこともわかります。

本資料の主題は、イコンの中でも特に親しまれ数多の「型」が存在する聖母マリアです(イエスの母であるマリアは、正教会においては生神女[テオトコス]や至聖女[パナギア]の称号で呼ばれます)。祝福を受ける幼児キリストと彼を抱きかかえる聖母という構図から、本資料は「エルサレムスカヤ(エルサレム)



の聖母」と呼ばれる型であることがわかります。この名称は、同イコンのモデルとされる原イコンが福音書記者ルカの描いた画であり、エルサレムにルーツを持っているという伝承に由来します。しかし、かの原イコンは現存しておらず、実際にルカその人が描いたものであったのかも定かではありません。

いずれにしても、本資料を含む今日遺されている「エルサレムスカヤの聖母」は、何らかのイコンの「写し」ということとなります。しかしそのことは、イコンという宗教画において決してネガティブな意味を持ちません。なぜならば、聖なる存在の本質を物質に写し取ること——その行為は、見えざる神が受肉したというキリスト教の信仰に依拠しています——がイコンの目的であり、かつて先人が視て描き上げたものを忠実に写すことにこそ意味があるからです。この点が、イコンという宗教芸術と世俗の芸術とを分かつ決定的な要所であると言えるでしょう。

博物館教員 下園 知弥





SEINAN GAKUIN

# 大学博物館のお仕事 Ⅲ

## 大学博物館で働く人 —学芸員編—

博物館には学芸員という専門職員がいます。学芸員は博物館の基本の仕事である、資料の収集、調査研究や展示にはじまり、講座やワークショップなどの教育普及活動、来客の対応など様々な業務を担います。たいへん多忙な学芸員ですが、大学博物館である当館の専任学芸員は博物館教員でもあります。学芸員の仕事だけでなく、大学での講義や業務なども行っているのです。そこで当館には、学芸研究員と呼ばれる学芸員も所属しています。学芸研究員は博物館教員を補佐する学芸員で、調査研究や教育普及、展示事業といった博物館の専門業務を担います。

今回はそんな学芸員のお仕事を一日に濃縮してご紹介します。朝は研究室で大学講

義の準備をしたあと、博物館に行き開館前にスタッフたちと軽いミーティングをして情報を共有。また、館内を見回り、展示室の温湿度は適切か、害虫は発生していないかなど、資料が汚損しないよう細心の注意を払います。開館後は、予約のあった団体のガイドツアーを実施。そのあとは裏方仕事に回って、次回展示会の準備をします。資料を借用する博物館の学芸員とやりとりをしたり、図録や刊行物、展示の造作物を依頼する業者との打ち合わせなども行ったりします。午後には、館長や職員とともに学芸会議を行い、博物館の運営に関して話し合いをします。夕方の大学講義を終えたあとは、週末の博物館実習のための準備や、夜には一般向けの講座をこなして、図録や研究論文の執筆を行います。ほかにも展示替えの準備や資料調査などの学芸員業務、大学教員としての業務も山ほどあり、個人の研究も含めると学芸員のお仕事って本当に大変です！ それでも、色々な人と接することができるこの仕事は魅力的であると、当館学芸員は語ります。

学芸研究員 山尾 彩香



大学講義の様子



## 博物館通信

2022年9月から11月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

この秋は当館のドージャー記念室にて、2022年10月22日(土)から11月12日(土)まで「波多野培根先生記念日特集展示」を開催しました。波多野先生は西南学院史において重要な人物であり、西南学院大学の学年暦では11月7日がその記念日として設定されています。実は担当者自身も今回の展示を行うまで波多野先生のことを詳しく知らなかったため、この機会にもっと学院史について勉強したいと思いました。

学芸調査員 栗田りな

2022年9月19日(月)～12月14日(水)  
博物館常設展ニュース展示「ジンボトル」を展示しました。

2022年11月21日(月)～12月27日(火)  
せいなんこどもワークショップ  
「クリスマスツリーをかざろう」を実施中です。

2022年9月19日(月)～2023年1月14日(土)  
2022年度企画展Ⅱ  
「やさしいキリスト教展シリーズ キリスト教美術をみとく  
—キリスト・聖母・聖人—」を開催中です。

2022年11月19日(土)～2023年1月13日(金)  
2022年度博物館実習成果展「神殿奉献祭(ハスカ)  
—ユダヤ教の光の祭り—」を開催中です。

2022年10月22日(土)～11月12日(土)  
テーマ展示「波多野培根記念日特集展示」を開催しました。

2022年11月22日(火)～2023年2月25日(土)  
テーマ展示「出島のくらし」を開催中です。



展示会紹介

開催中

2022年度西南学院大学博物館実習成果展

# Hanukkah 神殿奉献祭

—ユダヤ教の光の祭り—

会期/2022年11月19日(土)～2023年1月13日(金)

会場/西南学院大学博物館1階常設展示室

主催/西南学院大学博物館実習生



「ハスキャ」 19世紀/エルサレム/青銅製



「ハスキャ」 20世紀/ポーランド/金属製

神殿奉献祭(ハスカ)とは、ユダヤ教の歴史上の出来事に由来する冬の祝祭です。ユダヤ暦でキスレヴと呼ばれる月からその次の月にかけて8日間行われます。キスレヴは西暦で表すとちょうど本展示会が開催される11月から12月に当たります。この祭りは紀元前2世紀に、異教徒に穢されたエルサレムの神殿を奪還したことを記念しています。そのため「献納」や「奉献」、「落成」を意味する「ハスカ」と呼ばれているのです。また、神殿を解放した際に点した1日分の油が8日間燃え続けたという奇跡から、ハスカには「光の祭り」という別名もあります。

本展では、当館所蔵のコレクションの中からハスカに関わる資料を展示し、解説とともにご紹介します。普段は中々触れることのできないユダヤ教の生活と文化に出会い、理解を深める機会になれば幸いです。

展示会紹介

次回開催

2022年度西南学院大学博物館特別展

# 掘り出された祈り 考古学からみた筑前・筑後のキリシタン

会期/2023年1月23日(月)～3月11日(土)

会場/西南学院大学博物館1階特別展示室

主催/西南学院大学博物館

1549(天文18)年、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルによって日本にキリスト教が伝来した。1551(天文20)年には、大友義鎮(宗麟)によって豊後府内でキリスト教の布教が許可され、1554年(天文23)年には教会用地が与えられた。また、当時、事実上大友氏の勢力圏であった博多においても、1557(弘治3)年に教会用地が与えられており、布教活動がはじまったとされる。その後、博多のほかに久留米や秋月にも教会が建てられ、宣教師らが活動を行っており、筑前・筑後でのキリシタンの様子を示す遺物(「キリシタン遺物」)が福岡県内の各地から出土している。

後援/福岡市 福岡市教育委員会 (公財)福岡市文化芸術振興財団  
協力/朝倉市秋月博物館 臼杵市教育委員会  
大分県立埋蔵文化財センター 大分市歴史資料館  
大野城市教育委員会 九州大学附属図書館  
(公財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室  
久留米市 久留米市教育委員会 神戸市立博物館  
水鏡天満宮 大刀洗町教育委員会  
福岡市 福岡市博物館 福岡市埋蔵文化財センター  
南島原市 龍光山円清寺

本展示会は、おもに福岡県内の遺跡から出土したキリシタン遺物をもとに、筑前・筑後のキリシタンの実態について紹介するものである。また、九州におけるキリスト教布教の一大拠点であった豊後(大分県の一部)や、島原・天草一揆の舞台となった肥前原城(長崎県南島原市)において出土したキリシタン遺物についても扱い、周辺地域でのキリスト教受容の状況や、筑前・筑後のキリシタンに与えた影響などについて紹介したい。